

●株主メモ

| | |
|------------------------|--|
| 事業年度 | 4月1日～翌年3月31日 |
| 期末配当金受領株主確定日 | 3月31日 |
| 中間配当金受領株主確定日 | 9月30日 |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料) |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所 市場第1部 |
| 公告の方法 | 電子公告により行う 公告掲載URL http://www.tachibana.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。) |

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金の振込指定、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

『個人投資家向け会社説明会』を開催



7月に札幌、8月に東京にて「個人投資家向け会社説明会」を開催。多数の方にご来場いただきました。

今後も定期的で開催していく予定で、知名度の向上と企業認知の拡大、さらに投資家・ファンの獲得に繋げられるように取り組んでまいります。

株主様向けアンケート 株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。


 <https://www.e-kabunushi.com/>
アクセスコード 8159

いいかぶ

検索

 空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。


 携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。
QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

 ※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <https://www.a2media.co.jp/>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問合せ「e-株主リサーチ事務局」

TEL:03-6779-9487 (平日 10:00~17:30)
MAIL:info@e-kabunushi.com

 株式会社 立花エレクトック

〒550-8555 大阪市西区西本町一丁目13番25号
電話：06-6539-2718 FAX：06-6539-8820

<http://www.tachibana.co.jp/>



株主通信

第91期 中間報告書
2019年4月1日 ~ 2019年9月30日

 株式会社 立花エレクトック
C.C.J2200 100th Anniversary in 2021

Electric & Electronics Technology
立花エレクトックは電機・電子の「技術商社」です。

『CEATEC2019』に出展しました(2年連続)

～製造ラインまるごとスマート化～
エッジコンピューティング技術で自律するモノづくり

10月15日～18日に幕張メッセで開催されたアジア最大級のエレクトロニクスとITの展示会「CEATEC2019」に立花エレテックグループの総力を挙げて出展しました。



ロボットによる
スマホリング製造自動化ライン



エッジコンピューティング技術による
FA-ITのシステム間連携

出展内容

①自律制御・予知保全・AI分析による
スマート工場
各種ロボットの組み合わせとデータ分析技術で自律するモノづくりを実現！

②FA-ITのシステム間連携
エッジコンピューティング技術で収集したデータの各種活用方法を紹介！

③3Dプリンタ、デジタルシミュレーション技術
3Dデータを活用した近未来の製造技術、設計方法を紹介！

参加型展示：ロボットの非接触操作の体感
●空中に浮かび上がるディスプレイによるロボット操作！
●顔の動きと音声によるロボット操作！

ブースの中心となるのが、「スマホリング製造ミニ工場」。ロボットによる製造工程を再現しており、部材の供給から加工組立、検査(AIカメラ)、梱包・倉入までをロボット5台とAGV(自動搬送車)、制御コントローラーを使って完全自動化した無人ロボットラインを稼働させました。

ほかにもスマートグラスと現場を「見える化」するデジタルセンシングを組み合わせたAR(拡張現実)遠隔操作支援システムや3Dプリンタを実演展示しました。

業績ハイライト(連結)

| | | | |
|------|--------------|----------------------|-------------|
| 売上高 | 838億 33百万円 | 営業利益 | 30億 21百万円 |
| | 前年同期比 7.1%減 | | 前年同期比 6.4%減 |
| 経常利益 | 31億 57百万円 | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | 22億 42百万円 |
| | 前年同期比 11.7%減 | | 前年同期比 7.6%減 |

事業ドメイン

FAシステム事業

●FA機器
プログラマブルコントローラー、インバーター、ACサーボや配電制御機器さらに各種モーターの販売。

●FAシステムソリューション
生産設備を監視・計測・制御するシステムの構築やソリューションの提供。またロボットシステムの販売。

●産業メカトロニクス
放電加工機、レーザー加工機、またマニピュレーターなどの各種工作機械や3Dプリンターの販売。

●産業デバイスコンポーネント
デジタル接続機器やコネクタ等の入出力機器、またFAパソコンやネットワーク機器の販売。

半導体デバイス事業

規格品からユーザー仕様までニーズに合わせた半導体や電子デバイス製品の販売。さらにマイコン・ASICやカスタムLSIの設計開発。

施設事業

工場やオフィスビル・店舗における照明、空調、エレベーターや監視制御装置。また省エネに優れたオール電化製品の販売。



MS事業

電子機器の基板から完成品までの設計・製造受託(EMS)と立体駐車場や鉄道車両に使用される金属部材の加工・製造受託(MMS)。

海外事業

主に中国やアセアンなどのアジアに半導体、FA機器、放電加工機・レーザー加工機などの産業メカトロニクス製品の販売。



中長期経営計画を着実に実行し、さらなる成長を目指します。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長 渡邊 武雄

Q 当中間期の業績の概要についてお聞かせください。

A 米中貿易摩擦の長期化の影響により設備投資が減速し減収減益。

当中間期の業績は、売上高838億33百万円(前年同期比7.1%減)、営業利益30億21百万円(前年同期比6.4%減)、経常利益31億57百万円(前年同期比11.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益22億42百万円(前年同期比7.6%減)となりました。

この要因につきましては、米中貿易摩擦の長期化で中国市場が大きく落ち込む中、国内経済においても景気の減速感が高まり、電子部品需要の減退に伴い、当社グループの関連する半導体・液晶製造装置関連、電子機器組立関連の設備投資が冷え込むなどの影響を受け、主力2事業のFAシステム事業、半導体デバイス事業が減収減益となりました。一方、施設事業はオリンピック関連、物流施設・ホテル

など増加する新築、再開発案件を取り込んで伸長しました。また、子会社については、海外子会社は米中貿易摩擦の影響を受けて、特に中国、香港において減収、国内子会社においても設備投資停滞による影響がでてきました。

このような状況下で、当社グループは将来を見据えた取り組みである中長期経営計画「C.C.J2200」の仕上げに向けて、人材確保などの先行投資を継続するとともに、AI・IoT時代における製造現場の生産性向上ニーズに応えるべく、グループ各社の技術を結集し、ロボットを含む製造ラインや設備機械を機能的に連動させるM2Mビジネスを強力に推進してきましたが、景気停滞の背景により当中間期の業績に大きく貢献するまでには至りませんでした。

なお、当中間期は減収減益という結果になりましたが、前中間期に次ぐ過去2番目に高い業績となっており、好調期の中の減速期と捉えています。

Q 株主還元と通期の業績見通しについてお聞かせください。

A 期初計画どおりの中間配当を実施。省エネ・自動化設備需要を確実に取り込むとともに、中長期経営計画を着実に実行して計画達成を目指します。

株主の皆様に対する利益還元につきましては、経営の重要課題と認識しており配当金及び自己株式の取得、株式分割など総合的な利益還元を以って報いてまいりたいと考えています。

当期の中間配当金は、期初計画どおり1株当たり24円とさせていただきます。期末配当見通しも期初予定の24円として、年間配当金は48円とさせていただきます予定です。

通期の業績は、売上高1,830億円、営業利益67億20百万円、経常利益70億60百万円、当期純利益48億60百万円を予想しています。

下期につきましては、米中貿易摩擦の長期化に伴う景気の低迷などの不安要素はあるものの、製造業の省エネ設備への切り替えや自動化設備需要などの引き合いが増加しており、C.A.P.UP(体質改善プログラム)で培った営業力を発揮し、きめ細かい営業活動を展開して確実に需要を取り込んでまいります。また、中長期経営計画「C.C.J2200」の施策の着実な実行やM2M(機械間通信)ビジネスを強力に推進することにより計画達成を目指してまいります。

Q 八洲電子ソリューションズ(株)の買収を発表しましたが、目的についてお聞かせください。

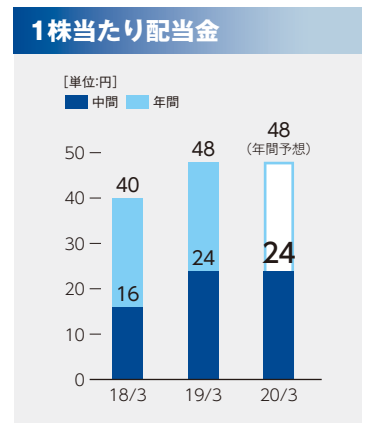
A 大きなシナジー効果を創出し収益力の強化に繋がります。

本年9月、八洲電機(株)との間で同社の子会社である八洲電子ソリューションズ(株)の全株式の譲渡を受ける基本合意書を締結しました。

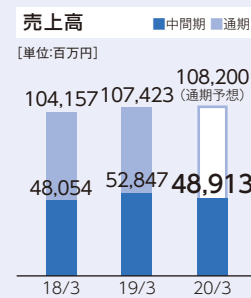
八洲電子ソリューションズ(株)は、半導体デバイス事業においては同業関係にありますが、グループに取り入れることとなったのは、商品ラインナップの拡充による顧客満足度の向上やマーケットの拡大、また、お互いの得意分野における技術補完によるソリューション提案力の強化が図れるなど、大きなシナジー効果が得られるものと判断したからです。

同社は2016年4月、八洲電機(株)から分社化、ルネサスエレクトロニクスや日立パワーデバイス製品を中心に液晶モジュール、電池、センサー、受動部品など電子デバイス関連製品を販売。また、IoT関連を中心に基板実装やソフトウェアの受託開発・製造にも強みがあります。

なお、株式譲渡契約を2020年1月31日に締結し、株式譲渡を同年4月1日に予定しています。



FAシステム事業



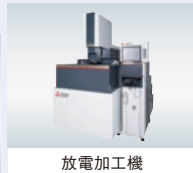
FAシステム事業は、電子部品需要の減退に伴い、半導体・液晶製造装置関連、電子機器組立関連の設備投資が冷え込んだ影響を受け低調に推移しました。

●FA機器分野は、国内建設需要の好調を受けて配電制御機器は堅調に推移しましたが、半導体製造装置、電子機器組立関連が冷え込み、セットメーカーの設備投資が大きく低迷したことにより、プログラマブルコントローラー、インバーターが低調に推移しました。

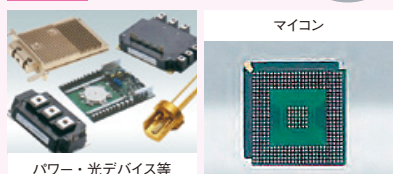
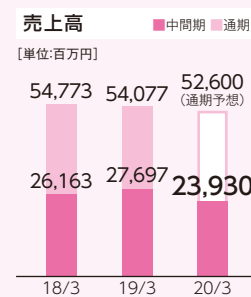
●産業機械分野は、レーザー加工機及び製造ライン向け自動化設備が減少しました。

●産業デバイスコンポーネント分野は、タッチパネルモニター及びPC周辺装置・ネットワーク機器が伸長しました。

●前年にあった大ロプラント案件の影響により、前年同期に比べて重電が減少しました。



半導体デバイス事業



半導体デバイス事業は、米中貿易摩擦の影響で中国市場における電子部品需要の落ち込みが、海外子会社に影響を与え、特に中国、香港が苦戦しました。また、国内でも影響を受け低調に推移しました。

●半導体分野は、マイコン、ロジックIC及びパワーモジュールが減少しました。

●電子デバイス分野は、液晶パネルやメモリーカードが大きく減少しましたが、昨今の安全運転面での需要からドライブレコーダー向けに搭載されるメモリーモジュールは伸長しました。

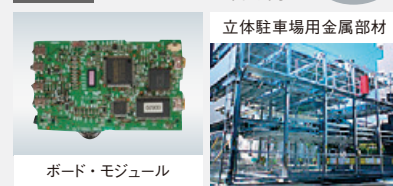
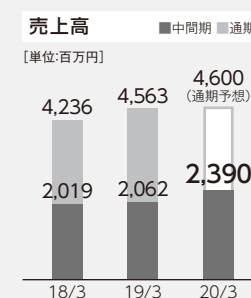
施設事業



施設事業は、首都圏では再開発案件や物流施設、関西では病院施設やインバウンドによるホテル需要が増加する中、要員の先行投資による対応力の面で成果が現れ、業績は拡大しました。なお、売上高は中間期としては過去最高を更新しました。

- 店舗・設備用パッケージエアコン、ビル用マルチエアコンなどの空調機器が好調に推移しました。
- 受配電設備、監視制御設備が首都圏開発案件などの取り込みにより伸長しました。
- エコキュート及び全社をあげて取り組んできたLED照明は好調に推移しました。

その他



●MMS分野は、部材加工品が大きく伸長し、中でも立体駐車場向け金属部材及び流通向けラックビジネスが好調に推移しました。

●EMS分野は、プラットホーム可動柵の案件が好調に推移しました。

“技術商社”立花エレテックの得意技

～ソリューション成功事例集のご紹介～
<http://tachibana-tokuiwaza.com/>

立花エレテックだからこそ実現できるソリューションがあります。

各事業にて技術商社として培ってきた技術力と豊富な実績に基づいたコンサルティングでお客様の課題を解決します。業種や導入効果、ソリューションから絞り込み検索が可能です。是非ご覧ください。



個人投資家の皆さまに向け、各施策を推進しています。

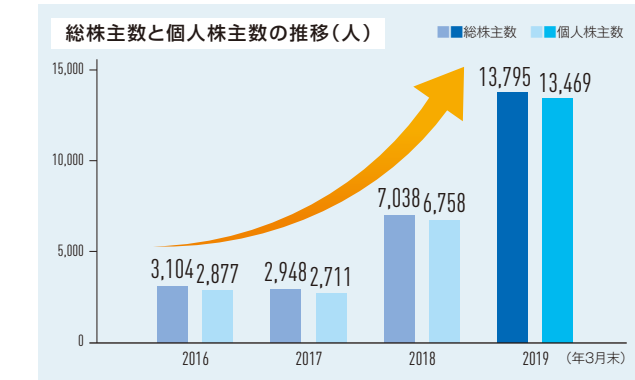
全国で『個人投資家向け会社説明会』を開催

当社は、IR活動の一環として『個人投資家向け会社説明会』を各地で開催しています。昨年8月からこの1年間においては、東京、名古屋、福岡、広島、仙台、札幌で開催し1,300名を超える方にご来場いただきました。説明会では、会社紹介ビデオの上映や業績・重点取り組み施策・中長期経営計画などを説明しました。今後も定期的に開催していく予定で、知名度の向上と企業認知の拡大、さらに投資家・ファンの獲得に繋がれるよう取り組んでまいります。



個人株主数が確実に増加

増配や株主優待の導入などの株主還元策の実施や『個人投資家向け会社説明会』の実施回数を増やし企業認知の拡大を推し進めた結果、個人株主数がこの2年で飛躍的に増加しました。



投資家の皆さまの視点に立った情報

年2回発行している株主通信では、事業内容や業績、トピックスについて、視覚的にも見易く、また読み易い表現を心掛けています。そのほか、アニュアルレポートやデータシートなどのIRツールの充実を図っています。



株主優待制度の実施

投資の魅力を高め、中長期的に当社株式を保有していただけるよう、2018年度から株主優待制度を実施しています。3年以上の継続保有者には優遇(増額)制度を設けています。



● 四半期連結貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

| 科目 | 当第2四半期末 (2019年9月30日現在) | 前期末 (2019年3月31日現在) |
|----------------|---------------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 86,819 | 96,470 |
| 現金及び預金 | 14,585 | 15,167 |
| 受取手形及び売掛金 | 56,275 | 65,682 |
| たな卸資産 | 13,744 | 13,373 |
| その他 | 2,215 | 2,248 |
| 固定資産 | 24,339 | 24,699 |
| 有形固定資産 | 5,321 | 5,219 |
| 無形固定資産 | 357 | 258 |
| 投資その他の資産 | 18,660 | 19,221 |
| 資産合計 | 111,159 | 121,170 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 40,201 | 50,873 |
| 支払手形及び買掛金 | 32,960 | 42,548 |
| 短期借入金 | 1,568 | 1,949 |
| 賞与引当金 | 1,148 | 1,436 |
| その他 | 4,525 | 4,940 |
| 固定負債 | 2,026 | 2,380 |
| 長期借入金 | 77 | 83 |
| 退職給付に係る負債 | 195 | 227 |
| その他 | 1,754 | 2,070 |
| 負債合計 | 42,227 | 53,253 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 64,033 | 62,397 |
| その他の包括利益累計額 | 4,897 | 5,519 |
| 純資産合計 | 68,931 | 67,916 |
| 負債純資産合計 | 111,159 | 121,170 |

● 四半期連結損益計算書(要旨) (単位:百万円)

| 科目 | 当第2四半期(累計) (自2019年4月1日 至2019年9月30日) | 前第2四半期(累計) (自2018年4月1日 至2018年9月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 83,833 | 90,224 |
| 売上総利益 | 11,531 | 12,077 |
| 販売費及び一般管理費 | 8,510 | 8,849 |
| 営業利益 | 3,021 | 3,227 |
| 経常利益 | 3,157 | 3,577 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 3,248 | 3,577 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 2,242 | 2,427 |

● 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)

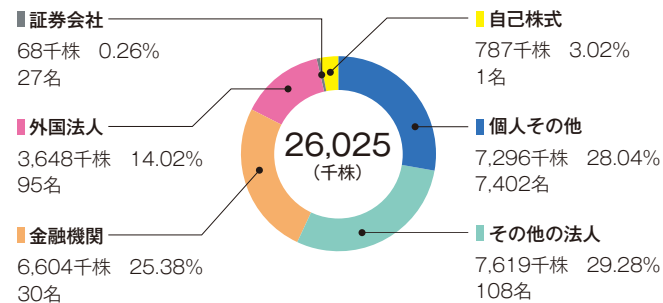
| 科目 | 当第2四半期(累計) (自2019年4月1日 至2019年9月30日) | 前第2四半期(累計) (自2018年4月1日 至2018年9月30日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 736 | 1,506 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △1,707 | △655 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | △998 | △603 |
| 現金及び現金同等物に係る 換算差額 | △85 | △44 |
| 現金及び現金同等物の 増減額(△は減少) | △2,055 | 202 |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | 13,638 | 13,274 |
| 現金及び現金同等物の 四半期末残高 | 11,582 | 13,477 |

●株式の状況 (2019年9月30日現在)

| | | |
|----------|---------------------------|---------------------|
| 発行可能株式総数 | 96,000 千株 | |
| 発行済株式総数 | 26,025 千株 | |
| 株主数 | 7,663 名 | |
| 大株主 | | |
| | 株主名 | 持株数 持株比率 |
| | 三菱電機株式会社 | 1,921 (千株) 7.61 (%) |
| | KBL EPB S.A. 107704 | 1,581 6.26 |
| | 株式会社サンセイテクノス | 1,478 5.86 |
| | 立花エレテック従業員持株会 | 1,093 4.33 |
| | 株式会社三菱UFJ銀行 | 1,082 4.29 |
| | 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 977 3.87 |
| | 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 802 3.18 |
| | 株式会社さきんでん | 754 2.99 |
| | 株式会社ノーリツ | 742 2.94 |
| | 佐竹 千草 | 491 1.95 |

(注) 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。
 2. 上記のほか、当社が保有する自己株式が787千株あります。
 3. 持株比率は自己株式787千株を控除して計算しております。

●所有者別株式分布状況 (2019年9月30日現在)



(注) 千株未満は切り捨てて表示しております。

●会社概要 (2019年9月30日現在)

| | | |
|-------|--|--|
| 商号 | 株式会社 立花エレテック | |
| 英文社名 | TACHIBANA ELETECH CO.,LTD. | |
| 創業 | 1921年(大正10年)9月1日 | |
| 設立 | 1948年(昭和23年)7月12日 | |
| 資本金 | 58億74百万円 | |
| 従業員数 | 863名(連結1,360名) | |
| 株式上場 | 東証一部 | |
| ISO取得 | 品質マネジメントシステム ISO9001 JQA-QMA10303 | |
| | 環境マネジメントシステム ISO14001 EMS693431 | |
| | 情報セキュリティマネジメントシステム ISO27001 IS 509430 | |



●取締役・監査役・執行役員 (2019年9月30日現在)

| | | | |
|-------------------|-------|--------|-------|
| 代表取締役社長 社長執行役員 | 渡邊 武雄 | 常務執行役員 | 高見 尚志 |
| 取締役 専務執行役員 | 山口 均 | 執行役員 | 米田 浩 |
| 取締役 専務執行役員 | 高見 貞行 | 執行役員 | 植田 裕和 |
| 取締役 専務執行役員 | 布山 尚伸 | 執行役員 | 多田 満 |
| 取締役 | 生田 誠 | 執行役員 | 相澤 忠範 |
| 取締役 | 辻川 正人 | 執行役員 | 松浦 良典 |
| 常勤監査役 | 松橋 澄 | 執行役員 | 城下 雅紀 |
| 監査役 | 大谷 康弘 | 執行役員 | 永安 悟 |
| 監査役 | 塩路 広海 | 執行役員 | 佐野 博行 |

●事業所 (2019年9月30日現在)

| | | | |
|----|--|-----|---------|
| 本社 | 大阪市西区西本町一丁目13番25号 | 営業所 | 東北(宮城県) |
| 支社 | 東京(東京都)、名古屋(愛知県) | | |
| 支店 | 東関東(茨城県)、北関東(埼玉県)、神奈川(神奈川県)、三河(愛知県)、東海(愛知県)、北陸(石川県)、三重(三重県)、滋賀(滋賀県)、南大阪(大阪府)、神戸(兵庫県)、姫路(兵庫県)、広島(広島県)、四国(香川県)、九州(福岡県) | | |

●関係会社 (2019年9月30日現在)

| 国内 | 海外 |
|--|---|
| 研電工業株式会社 株式会社立花宏和システムサービス 株式会社大電社 株式会社立花デバイスコンポーネント 株式会社高木商会 | 立花オーバーシーズホールディングス社 タチバナセールス(シンガポール)社 マレーシア営業所 タチバナセールス(香港)社 台湾立花股份有限公司 立花機電貿易(上海)有限公司 支店: 北京、深圳 営業所: 武漢、大連、青島 タチバナセールス(バンコク)社 タチバナセールス(インドネシア)社 |
| 本社(大阪市西淀川区) 本社(兵庫県尼崎市) 本社(大阪市浪速区) 本社(東京都港区) 本社(東京都大田区) | 中華人民共和国(香港) シンガポール 中華人民共和国(香港) 台湾(台北市) 中華人民共和国(上海市) タイ王国(バンコク) インドネシア(ジャカルタ) |

